

2022年に発生したカキ奇形果の特徴

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—カキ—気象解析

2 担当者名

佐藤寛人、尾形亜希子

3 要旨

2022年に県北地域でカキ「蜂屋」に奇形果が多発した。奇形果は大きく3つに分類され、条溝果（軽：浅い溝、中：軽と甚の中間程度の溝、甚：深い溝）、多子果、がくが5枚の果実が確認された。また、果樹研究所内の「蜂屋」70果を調査したところ、中～甚程度の条溝果及び多子果は、心室の配置や形状が正常果と異なり、心室が欠失している傾向が見られた（図1）。

(1) 発芽～展葉期の花器形成期において、約30°Cの高温やその後の低温など極端な温度変化に遭遇したことで、花器形成に異常が起こり、奇形果が発生したと推察された（図2）。



図1 奇形果の外観と断面（左から正常果、条溝果（軽）、条溝果（中）、条溝果（甚）、多子果、がく5枚）

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4～5年度
- (2) 研究課題名 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) カキの異常果発生要因解明試験，平成2年福島県果樹試験場業務報告，p.118-130, 1990.
- (2) 大西ら，凍霜害とその対策，農業技術大系果樹編 第4巻，p.技15-23, 1998.

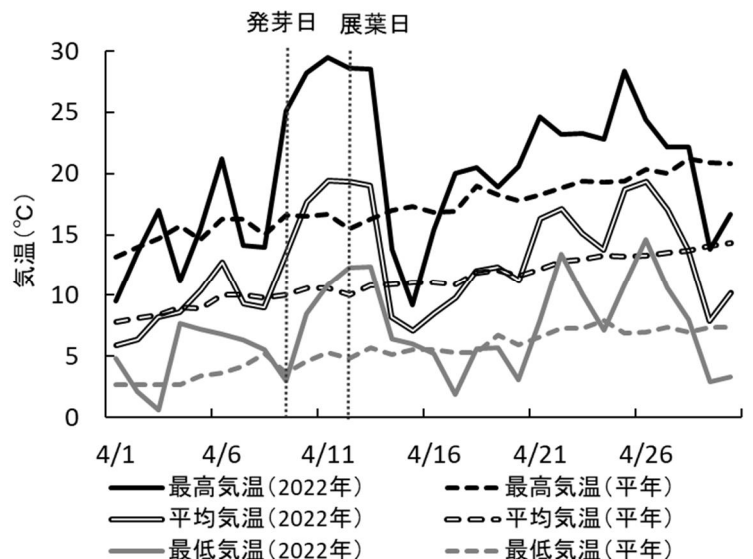


図2 発芽～展葉期の気温の経過（果樹研究所）